

平成 30 年度第 2 回宮城野区区民協働まちづくり事業 評価委員会 まちづくり活動助成事業 実績報告 議事要旨

日 時：平成 31 年 2 月 13 日(水) 午後 6 時～8 時 30 分
場 所：宮城野区役所 4 階第一会議室
出席者：吉川委員長、有坂副委員長、庄子副委員長、
葛西委員、佐藤委員、高畑委員

1 開会

2 挨拶 (吉川 時夫 委員長)

3 評価方法について (事務局より説明)

4 事業報告及び質疑応答

(1) 事業名：仙台駅東口ガイド推進プロジェクト

団体名：東口ガイドボランティア「宮城野さんぽみち」

<質疑・意見>

- ・以前NPO法人化を検討したらよいのではないかと提案したが、その後いかがか。
→出来ていない。今最大の課題は団体としての事務所がないことである。
- ・NPOプラザや市民活動サポートセンターにて、有料ではあるが事務所の貸出しが出来るのは知っているか。
→知っている。しかし現状ではマイナス決算で、事務所を借りる余裕がない。「依頼ガイド」を充実させるために、営業活動を増やし財政の基盤を作っていく。
- ・参加者を増やすためのPR活動はどういう状況か。今年度で3年目ということで助成が終わるが、どのようにして活動を継続しようと考えているか。
→団体で作成した広報チラシ、みやぎの・まつり、みやぎのイイねっと通信、町内会会報、市民フォーラム事例発表などでPRをすることで、実際に問い合わせや参加人数が増えてきた実感がある。今後はさらに営業活動を充実させ財政基盤の確立に力を入れたい。
- ・3年間の活動は、市民活動の模範となるような活動だと思う。今後さらにガイドの収益を上げて活動を継続してほしい、また他の市民活動団体に対しても組織運営や活動の拡がりなど享受できるような働きを期待している。他の助成金を活用する方法なども検討しながら、活動を縮小しないように継続して活躍してほしい。
- ・活動継続の1つのアイデアとして、参加料1,500円前後である程度人数をしばり、質を上げていくことにより、口コミで参加者を集める方法もある。宣伝方法に関しても、ホームページよりもFacebookなどSNSを活用することが有効だと思う。

(2) 事業名：栄あそぼう会

団体名：栄あそぼう会

<質疑・意見>

- ・定例会2～3回のうち1回を多種多様なイベントとして実施するなど、マンネリからの脱却に力を注いだことがよく分かった。「参加者の喜び」を着眼点に、さまざまな講演を企画するなかで、多くのつながりを作ることができたのではないかな。これからの活動にも期待したい。
- ・事業の成果をもっとPRしたらよいのではないかな。
→イベント実施の際には、町内会への回覧、ダイレクトメール、福室市民センター・包括支援セン

ターに掲示をして、広報活動に力を入れていくなかで、今までまったく関係を持っていない方の参加や問い合わせがあるなど効果を実感してきた。

- ・「高齢化」という地域課題の解決に向けた活動は、とても意義のある活動だと感じる。現在も助成金額は少なく本制度への依存度は低いと思うが、助成が受けられる期間で講師謝礼などの費用をどう自立して捻出していけるかを検討してもらいたい。また、集まったコミュニティの場から地域課題に向けた新たなサークルなどが生まれることも今後期待している。
 - ・活動の幅も広がり、仲間が増えていった要因は何だと思うか。
- 様々なテーマの企画を練り、多く講師に協力いただけたことが、参加者の笑顔となっている。

(3) 事業名：『消えた踏切』銘版で辿る仙石線／

団体名：宮城野原案内人の会

<質疑・意見>

- ・多くの地域でさまざまなまちあるき団体が活躍しているが、他団体との差別化になる強みは何だと思うか。その強みが「話題」となり、報道でも取り上げられるのだと思う。
- エリアとしては東口～榴ヶ岡～原町、7・8 コースを案内している。メインとなる強みは、仙石線の14ヶ所の踏切跡やその付近の神社を案内する点。
- ・銘板設置の経緯の報告書を読むと、「宮城野原案内人の会」なくして銘板が設置されなかったと思った。その強み・売りが他団体との差別化になると思うので、助成2年目・3年目に活かして欲しい。
 - ・「東街道＝源頼朝が歩いたかもしれない道」のようにイメージや想像を膨らませる案内が、参加者の楽しさや感動を呼ぶことにつながる。活動に活かして欲しい。
 - ・「鉄道」は引きになる強みだと思うし、継続した活動につながると思う。とことんマニアックに取り組むことで、宮城野区でのファンだけでなく、全国からのファンに広がっていくと思う。出来るのであれば、仙台電気鉄道や国鉄時代のゆかりのある人とつながるなど、より深く「鉄道」について掘り下げることで、ファンも増えるのではないかと思う。

(4) 事業名：仙台蒲生日和山プロジェクト

団体名：中野ふるさと YAMA 学校

<質疑・意見>

- ・岡田小学校で開催しているハマヒルガオプロジェクトの植栽活動に参加したことで、今後の活動のヒントを得たとあったが、具体的に教えてほしい。
- 津波によって地域にあった植物のほとんどが流されてしまった。日和山を際立たせるためにも、日和山の周囲の環境をよりよくするためにも、岡田小学校と協力してハマヒルガオを含め13種類ほどの植物や桜の木などを植える活動を「中野ふるさと YAMA 学校」の活動として実施していきたいと考えている。
- ・活動を広げるために従事する若者を増やしたいとあるが、その手法はどう考えているか。
- ふるさとの記憶を未来に残すためには、若者の力は必要である。ハマヒルガオプロジェクトでの小学生とのつながりをはじめ、中学生・高校生とのつながりを目指して活動している。
- ・震災を語り継ぐ活動には記録を残す場所など課題があるといわれているが、具体的な対策はあるか。
- 震災を語り継ぐ場所として「日和山」が必要な場所、大切な素材だと捉えている。資金面の課題もあるが、証明書の有料化やグッズの販売を促進し、自立できるように工夫していきたい。
- ・この活動を継続するには、バス手配・仮設トイレ設置は切り離せないものだと感じるが、助成期間が過ぎたときどうするか。企業協賛を受けるなど、向こう2年で構築していくことを目指してほしい。以前「日和山」付近に住んでいた人同士のネットワークをつくり、そこから協賛を出してもらい活動費に充てる案もある。

→発電所などをはじめ、多くの企業が立地してきているので、企業協賛など営業活動をしていきたいと考えている。

(5) 事業名：新浜『食』・『農』体験学校

団体名：宮城野親子で料理プロジェクト

＜質疑・意見＞

- ・天候に左右されない環境を考えているとあるが、具体的にはどのようなものか。
- 若林区で竹の竹害の課題があることもあり、子どもたちと一緒に竹の小屋づくりを活動している。制作から子どもに携わってもらい、出来上がった小屋の屋根の下で作業ができたり、休憩スペースとなったりできる環境づくりを目指している最中。
- ・「新浜『食』・『農』体験学校通信」毎月発行されているようだが、発行部数と配布先はどうなっているか。
- 基本的にはSNSやホームページで配信している。その他に、協力してもらっている企業や子ども食堂に配布をしている。需要と受入れ体制のバランスに課題を感じているので、次年度以降解決していきたい。
- ・団体として需要に応えるべく事業を拡大していく予定か、もしくはある程度の規模で継続していく予定か。
- 地元農家や新しく立ち上がった農業法人の中に、子どもの食育に興味あるがやり方が分からないという方が数多くいることが分かったので、ノウハウを伝えて広げていきたいと考えている。自団体としては現状維持を考えている。以前指摘いただいた資金面においては、今年度野菜販売や加工食品の販売を試験的に行ったが、予想以上に収入が増え、かつ子どもの産業体験にもつなげることができたので、次年度も力を入れて取り組んでいきたい。
- ・ノウハウを広めていけるような団体になってもらうことを期待している。今後を見据え、事業のサポート面としてはJA、クボタ、ベネッセなどの企業にもアピールしていくとよいと思う。
- ・参加者が多いのはどこの地域の人か。SNSのみで参加人数が集まるのか。
- 中心は宮城野区民。中には、石巻や塩竈など情報を入手して来られる方もいる。人を呼ぶことができるのが当団体の強みだと認識しているので、他団体とのタイアップすることも今後は取り組んでいきたい。
- ・チラシ作成や申込み管理など団体としての仕事は多くあると思うが、仕事の分担はどうされているのか、一人に負担がかかっているのではないか。
- 広報の8割は代表一人で実施しているが、今年度からボランティアの一人が農業部門を引き受けてもらえることができ、また学生に講師を担ってもらって教室を運営してもらうなど工夫を取り入れている。当助成金をはじめ、活動を行う若い世代が少ないので、やり方を教えるなど活動に関わる若者を増やしていきたいと考えている。

(6) 事業名：東仙台・まちの耀きを発見し、コミュニティーを活発化させるプロジェクト

団体名：東仙台耀き歴史クラブ

＜質疑・意見＞

- ・東仙台小学校の小学校に出前講座を実施したとあるが、何年生を対象に、そしてどんな反応だったか。
- 「地域の達人を探そう」というカリキュラムで小学校3年生3クラスを対象に講座を実施した。宮の杜・御立場・案内の地名の由来やまちの出来上がりなど歴史についての内容。生徒の食いつきは良く、初めて知った・勉強になったというような様子だった。
- ・パンフレット印刷 54,000 円とあるが、ネット印刷などももう少し安く工夫できないか、検討してほしい。
- そういう発想がなかった。研究していきたい。
- ・コミュニティーの活性化を目的に掲げているが、具体的にどんな課題があってどう解決したいかと

いう、中長期的な計画を改めて伺いたい。

→地域の歴史だけでなく「地域を盛り上げたい」と考えている。地域を歩いて、魅力を見つけ、地域の人と参加者をつなぎ合わせたい。それが新しいまちづくりに繋がっていくと思う。

- ・まちあるきが趣味の方には食いつきは良いと思うが、そうでない人をどう取り込んで、地元のファンになってもらうかが成功の鍵だと思う。
- ・アンケートなど参加者の声など外から意見を聞くことも、よりよい気づきを得るヒントになると思う。参考にしてほしい。
- ・ほとんどが男性参加者。女性にも目を向けたまちあるきがあっても面白いと思う。案内豆腐など料理の分野は、女性も興味を持つ話題であるので突破口としてほしい。

(7) 事業名：いわきり遊学プロジェクト

団体名：IOC（岩切おもしろ倶楽部）

<質疑・意見>

- ・世代間交流を主目的とあるが、40代以上の参加者が大部分だったと思う。

→子どもが少なかったのは反省点だった。開催日時や企画内容今後も検討していきたいと思う。

- ・活気がある地域というのは、地域外の人が多く関わっていることが多い。外ならではの目線で地域の魅力を発見できることも多いからである。若い世代や地域外の方を巻き込むことで進むこともあると思う。参考にしてほしい。
- ・寄席はどのようにして講師を呼んだのか。

→落語研究会に入っていた後輩がいた。個人のつながりで呼ぶことができた。

- ・お呼びするゲストは、最初のきっかけは個人のつながりもよいが、地域に深く関わってくれそうな人を見つけていくことが今後必要になると思う。寄席イベントは他地域でも事例があるので、参考にしながら、参加型のイベントなど参加者の興味がわく工夫を凝らすことも今後必要になってくると思う。
- ・今年度は色々な世代が集まり楽しめることに注力されたと思うが、色々な世代が交わって交流して楽しめる内容を考えて実施することを期待している。
- ・色々な世代が集まる楽しいイベントで参加者も満足されたと思うが、参加者同士のつながりを作ることをもっと意識してほしいと思う。岩切には良いスーパーバイザーがいるので、意見を聞いて協力もらう体制をぜひとってほしいと思う。

5 閉会